



## 2015年度 教育人間科学部FDフォーラム報告

2016年1月27日(水) 13:30～15:25、J号館5階A会議室において2015年度教育人間科学部FDフォーラムが開催されました。昨年度に引き続き、今年度も学生代表者と学部長との懇談会との合同開催となり、学生9名、教職員17名の参加者がありました。お忙しい中ご参加下さいました学部生、大学院生、教職員の皆様に感謝申し上げます。

教育人間科学部は来年度から「教育学部」に名称を変更し、これからも質の高い教員養成を継続します。そこでテーマを、「これからの山梨大学教育学部を考える」としました。また、就職支援、教育実習、広報活動をサブテーマとして設定し、今後の山梨大学教育学部をよりよくすることを目指し議論をしました。

最初に自己紹介に加えて、今回のFDフォーラムで特に話したい内容を1人ずつ発言してもらいました。一番多かったのが教育実習に関するものでした。1年生、2年生からは、それらに対する漠然とした不安があり、今回出席している先輩の話が聞きたいという希望が多く出されました。教育実習が終わった3年生からは、教育実習で得たことが今後どのように活かしていけばよいのか、また教員採用試験対策への不安が出されました。4年生や院生からは、今までの自分の経験を踏まえて、後輩へのアドバイスや特にこれからの学部教育について話をしたいという思いが出されました。今回のサブテーマに関する内容が多く、これらの学生の意見

を前提として、話し合いに入っていました。

就職支援については、キャリアセンター、教職支援室、教員採用試験への対策などが充実しているといった意見があった一方で、それらがうまく活用できていない学生もいるという意見も出されました。情報発信の工夫や学生が自ら施設に出向くような働きかけについて考えていきました。

教育実習に関しては、教職への意欲や実践的指導力を高めるという課題があり、それには1年次から「教育ボランティア」の活動をするなど学校と関わる機会を増やしていく必要のあることなどが話し合われました。

広報活動については、大学の認知度を高めることが必要という意見が出され、現在、学部HP改修やパンフレットの改善などが行われていること、また学生目線の大学近隣情報なども盛り込んだパンフレットを作成したらどうかなどの提案がありました。

1年次の5月には「新入生合宿研修」が実施されています。大学生活での目標やキャリア形成、学習方法について考える機会ですが、さまざまな情報が提供されるため、上の学年で重要となる情報をどのように学生に届けその重要性を再認識させるのか、学生自身がどのように活かしていくかが課題となりました。活発で有意義な話し合いとなりました。

# 附属学校での研修報告書

## 附属幼稚園訪問 教育支援科学講座 藤田 博康

平成27年11月19日に、初任者研修の一環として附属幼稚園での研修の機会に恵まれました。秋の爽やかな陽気と木々の色づきの中、保護者に付添われて登園する子どもたちは、皆いきいきとした表情でした。

教室に着くやいなや、園庭に駆け出す子どもたちと一緒に、遊具で遊んだり、おにごっこをしたりして、汗だくなるほど動き回りました。息が切れてベンチに座ると、子どもたちが寄ってきて、肩を叩いてくれたり、背中やひざの上に乗ってきたりして、いろいろな話をしてくれました。一人ひとりの子どもたちは、それぞれ素敵な個性があり、その子その子ならではの持ち味がありました。

この日は、年少児の保護者参観があり、親子でクリスマス・リースを作る営みがありました。親子が力を合わせて作ったリースがそれぞれのご家庭に飾られると、きっと家族全員が幸せな気持ちになるだろうと、感じ入るものばかりでした。昼は年中クラスの子もたちと一緒に弁当を食べ、帰りの会にも参加してもらいました。子どもたち一人ひとりが帰る際には、「また遊びに来てね」とハイタッチをしてくれ、とても感

激しました。

また、なによりも子どもたちの伸びやかさや内面を大切にして、暖かく誠実にかかわっておられる先生方の姿勢から、多くを学ばせていただきました。このような心温まる体験をさせていただいた附属幼稚園の皆さまに、心よりお礼申し上げます。貴重な機会をいただいたFD委員会の皆さまにも感謝いたします。ありがとうございました。



## 附属中学校訪問

### 教育実践創成専攻講座 小林 大

私はこれまで主に公立中学校現場の教員として勤務してきました。今回新任研修という機会を与えていただき、附属学校園での研修を通して、「授業研究」及び「教育実習」という視点で改めて学校を見直すことができました。

10月に訪問した附属中学校では、お二人の先生方の国語の授業を見学させていただきました。生徒の考えを協働的な学習で深めるよう意図された授業で、ワールドカフェを用いた魅力的な言語活動が展開されていました。

前後期の教育実習では、実務家教員として、附属4校園のそれぞれの学校を度々訪問させていただき、実習生が真剣に授業に取り組む様子や子どもたちと触れあう姿を観察しました。また、指導担当の先生方が親

身になって実習生を指導している様子を見たり、実習主任の先生から成果と課題などについてのお話しをお聞きしたりしました。

附属学校園で、質の高い授業や充実した教育実習が行われていることを目の当たりにできたことが、大きな成果でした。教育研究をどのように深め、その成果を県全体にどのように広げていくのか、またこれからの教師をどのように育てていくのか、私の今後の教育・研究活動に必要な視点について、多くのことを学ぶことができました。

このような貴重な機会を与えてくださった附属学校園の先生方ならびに学部FD委員会の諸先生には、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

## 附属中学校訪問 言語文化教育講座 上原 究一

11月30日に附属中学校を訪問させていただきました。中高一貫の私立男子校に通った私にとって、男女共学の中学校は漫画やドラマの中でしか見たことない未知の世界。初めて足を踏み入れてみると、そこには20数年前に私の青春を彩っていたゴミの山も落書きの海もなく、授業中に漫画を読んだり弁当を食ったり奇声を上げたりする輩もおらず、見知らぬオッサンの私とすれ違う際にも必ず元気に挨拶してくれる礼儀正しい少年少女たちが、きれいな教室で健やかに学びにいそ

しむ姿がありました。……これで私の母校が名の通った進学校だということですから、教育とは何を指して如何にあるべきものなのか、つくづく考えさせられてしまいます。

それはともあれ、当日は1年国語、2年国語、1年理科、1年総合学習などの授業を見学させていただきました。折しもソニー子ども科学教育プログラム最優秀校に選ばれたばかりとのことで、理科の授業では音の伝わり方について、太鼓や発泡スチロールの小玉やバネ

を使った実験を通して、自発的な気付きを促す取り組みがなされていました。それに限らず、どの授業も4人ずつの班単位でのグループ討論に力を入れており、自分で考える力を伸ばしていく方針が一貫していることが伝わって来ました。

これから教育学部で教員志望者を指導していく上で、たいへん有意義な体験が出来た一日でした。このような機会を与えて頂きましたFD委員会と附属中学校の先生方に心より御礼申し上げます。



### 附属小学校訪問 科学文化教育講座 森長 久豊

11月17日に、附属小学校で4年生のクラスの授業を1日間見学させていただきました。午前は、国語、算数、体育、社会の授業を、午後は理科の授業を拝見しました。ほぼ完全に双方向である小学校の授業は、大変勉強になります。小学生は大変元気が良く、授業中に挙手をして発言していました。常に考えながら授

業に取り組む姿勢にはすばらしいものを感じました。大学では、学生が静かに授業を聞くことが多いですが、自分の考えを他の人たちと共有する機会をもっと増やすべきだと思いました。担当している自分の授業に、アクティブラーニングの手法を取り入れていかなければと強く思いました。

お昼の給食もクラスのみなさんと一緒に食べ、楽しい時間を過ごしました。給食を食べるのは、中学生の時以来なので懐かしく思いました。メニューは、30年前と大きな違いはありませんでした。午後の一部は、附属小学校の創立140周年記念式典があり、参加させていただきました。JAXAの川口先生が記念講演をしてくださいました。後ほど担任の先生が確認すると、クラスのみなさんがその内容についてしっかり聞いて覚えていて感心しました。この研修は、私にとって大変有意義な時間でした。この機会を与えてくださった、附属小学校の先生方、FD委員会の皆さまに感謝申し上げます。



### 附属幼稚園訪問 科学文化教育講座 成瀬 弘

今回、初任者研修として附属幼稚園に一日研修をする機会を頂き、誠に有難うございました。特に、附属幼稚園の副園長の荻原先生を始め教職員の先生方には、年末のお忙しい中にも関わらず現場のお仕事の様子を快く拝見させて頂けるようご配慮頂き誠に有難うございました。去る12月15日火曜日に、私は初めて山梨大学附属幼稚園に足を運びました。幼稚園での教育は、学校教育での学習指導の原点であり、そこでの教育環境について体験しておくことは有益であると考えました。幼稚園での9:00から14:00までの登園から降園までの園児の様子を観察させて頂きました。年少と年中の園児は建物の入り口まで親が付き添って来て門から近い側に部屋があり、一方の年長の園児は、門から入って少し奥の方から建物に入り、単独で玄関から入り内履きに履き替えて年長の部屋に行くという

ように、年が上になる程自立性を育成していけるように配置されていました。幼稚園での教育は小学校・中学校とはずいぶん異なるという印象でしたが、園児がのびのびと自由に遊んだり集団行動をしたりしてゆく中で、貴重な学びをして行くのだということが良く分かりました。また、園児の自立性を尊重し育て上げてゆこうとする姿勢が感じられました。園児は、遊びの中で必要な能力を自然に獲得してゆけるのだが、そのための適切な環境設定と状況に応じた指導が必要だという事がわかりました。今後は、ピアジェやヴィゴツキーなどの研究を少しでも理解するとともに、幼児・児童の認知形成過程について、諸先生方からご教授を賜りながら理解を深めることができれば、有難いと思っています。どうか宜しくお願いいたします。

## 附属幼稚園訪問 身体文化教育講座 安藤 大輔

初任者研修の一環として、11月19日に附属幼稚園に伺わせていただきました。私は山梨大学教育人間科学部の出身ですが附属幼稚園に伺ったことはなかったこと、また現在、幼稚園に通う子どもを持つ身として同年代の子ども達の様子をみてみたいという思いから幼稚園での研修を希望しました。

登園の様子から、各クラスの様子を参観させていただきました。今回、最も印象に残っているのは様々な「遊び」を通して学ぶというスタイルです。正直、私が当初考えていた附属幼稚園のイメージとは全く異なるものでした。遊びを通して、自然と身体を動かす心地よさを味わいながら、伸びやかに遊ぶ子どもの姿には大変感銘を受けました。子ども達は遊びの中で自分なりに考えたり工夫したりしながら、笑顔を絶やさず遊んでいましたが、そこには教職員の方々の工夫を凝らした仕掛けが至る所にありました。私の専門分野は健康科学になりますが、園児の健康をどう守っていくのかという答えが附属幼稚園にはありました。子どもは置かれた「環境」で育つといいますが、子ども達が

健やかに元気で生活するためには、どのような環境を整えていくのが大切なのかを改めて考えさせられたことが研修の大きな成果だったと思います。

最後になりましたが、今回の研修の機会を与えていただきました加藤園長先生をはじめ附属幼稚園の先生方やFD委員会の先生方に心より感謝申し上げます。



## FD研修報告

### 「(株)ベネッセi-キャリア設立記念 大学シンポジウム2015 学生の成長と社会での活躍 ~「まなぶとはたらくをつなぐ」を考える~」に参加して 副委員長 片野 耕喜

会場の青山学院大学には全国の私立・国立大学から300名を越える参加者がいました。基調講演では実践女子大学の深澤晶久特任教授より、「仕事に大切な7つの基礎力」として新卒者に求められる要素が具体的に指摘されました。氏は資生堂人事部長で長く新卒者の採用と研修に携わってきた観点から、学生に基本的なマナーと礼節をわかまえる重要性を強調しておられました。

主催者側からは「大学卒業後5年目までの社会人調査から見たこと—社会での活躍を支える力とは—」という詳細なデータに基づく調査報告がなされ、データ分析により「大学卒業後の現在、自信を持って日々過ごしている社会人は大学で何を身につけたのか」「大学入学時の主体性が高くなくとも、大学で成長し、現在の自信につながっているキーは何か」という点が説明されました。

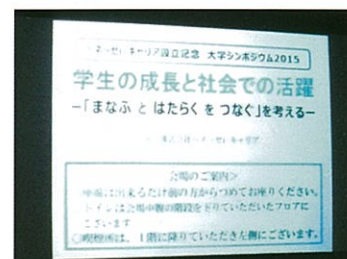
私は大学卒業後は大学教員になるまでずっと学生として研究しておりましたので、教員採用試験も受けたことはなく、就職活動というものも知りません。第一線の現場で活躍してきた講師の方々の提言や問題点の指摘は本当に参考になることばかりで、「大学教員は研究の蛸壺に入っている」だけではダメなのだと思いがしました。

その後第2部として実践報告がふたつ行われ、詳しい内容は割愛しますが、青山学院大学社会情報学部を例に、「社会でも学び続け、生き抜く力を身につける教育」と題して学部長の稲積宏誠教授のお話、次に福岡女子大学の国際文理学部准教授 和栗百恵氏により「社会でも学び続け、生き抜く力を身につける教育」と題して、「生き方を考え、能力を培う体験学習 体験から学びを生みだし深める手法」が紹介されました。



大学初年次教育教材

考え方は、教育学部の学生は学んだ知識を子どもたちに「伝達し」、「成長させていく」のが将来の目的ですから、こういう考え方をカリキュラムに取り入れることは教育学部にとって重要であろうという感想をもちました。



シンポジウム開催



パネルディスカッション